そ ぞ

そ 齒音にして單子音の一つ。

ぞ その濁音。

そ 衣(名) ころも。●衣服。……おんぞ又はみぞ(御衣)など續く時は濁音となる。

そ 麻(名) 草の名。あさ。●を。○「夏麻(なつそ)」「菅麻(すがそ)」

そ 背(名) せ。●せなか。○「そびら」「そがひ」(古)

そ 祖(名) 先祖。

そ 租(名) 田より納むる年貢。

そ 蘇(名) 牛羊の乳。……昔し大饗の饗應などに用ひたる食品。

そ 疏(名) (一)上書。(二)註解。

そ 其(代) それの略。○平治「そなる由をぞ申されける」謠曲「是こそそにておはしませ」

そ 十(數) とを。●じふ。……但し「八十の衢」「三十一文字」など他の數詞に續けて十位を示す時にのみ用ふ。

そ (助動) 禁止のなの字を前に置く時附屬して動詞の下に用ふる詞。○古今「春日野は今日はな燒きそ若草の妻もこもれり我もこもれり」

ぞ (後) (一)物事を是と抑へ附くる程の力をあらはす詞。●又引き留むる程の力をあらはす詞。○源氏「大江殿はいたく荒れて松ばかりぞしるしなりける」古今「人はいさ心も知らず故郷は花ぞ昔の香ににほひける」(二)たゞ口調を強むるために置くもあり。○枕「あさましきまであいなく面ぞ赤むや」(三)人に指し示すやうの力をあらはす詞。○大鏡「はじめは横川に住ませ給ひしぞかし。後には多武峰に住ませ給ひき。いといみじく侍りし事ぞかし」(四)疑問の詞に附屬する詞。○「何故ぞ」「誰なるぞ」

そゐ 初位(名) 古代位階の稱。八位の下の位。大初位上、大初位下、少初位上、少初位下の四等あり。●しよゐ。

そひィ (名) 物に沿ひたる所。●傍。●側。○夫木「夕霧に立てるそほづや見えざらん山田のそひに牡鹿なくなり」同「堀りて植ゑし籬のそひのまる柳しだりにけりな枝もたわゝに」

そひィね 添寢(名) そひぶしに同じ。

そひィぶね 添舟(名) 大舟に附屬する小舟。●はしけ。

そひィぶし　●てんま。（散木）

そひィふす　添臥（名）　男女共に寢る事。○源氏「いとかう世づかぬ御そひぶしならんとは思はざりけり」

添臥（自動四段）　〔一〕横になりて寢ころぶ。……床を取りて寢るに非ずして。○源氏「手習してそひふし給へる御うしろで」〔二〕男女共に寢る。○源氏「御琴を枕にて諸共にそひふし給へり」

そろ　候（自動。助動四段）　さぶらふの略。

そろぬ　（名）　草の名。薗の一種。燈心に引き又疊に造るもの。○夫木「そろぬおふる野崎の荒田うちかへし急げるしろばむのたれかも」

そろひィ　揃（名）　揃ふ事。●揃ひたる物事。

そろばん　算盤。十露盤（名）　和算の道具。並び珠を上下して計算するもの。

そろべくそろ　（句）　〔一〕鎌倉時代以來女子の消息に用ひし詞。現今ならば「べく候」又「候ふべし」などのみいふ處。○「御座候べく候。」〔二〕轉じて元祿時代には「行きなり放題にして置け」と云ふ意に用ふ。

そろりと　（副）　急がずに。●そろ〳〵。●ゆっくりと。

そろりそろりと　（副）　そろりとに同じ。○狂言「先づそろり〳〵と參らう」

そろそろ　徐徐（副）　ゆっくり。●急がずに。●しづかに。

そろう　疎漏（名）　疎略。●投げやり。△（形）—疎漏なる。（副）—疎漏に。

そろふゥ　揃（他動下二段）　揃はしむる。

そろふッ　揃（自動四段）　同じやうに調ふ。

そば　蕎麥（名）　〔一〕草の名。莖赤く花白くして實に稜あるもの。之より蕎麥粉を取る。●そばむぎ。〔二〕蕎麥切の略。

そば　側。傍（名）　かたはら。●ほとり。●近邊。●横手。

そば　稜（名）　物のかど。●衣袴などの端。○著聞「袴のそば高く挾みて」

そばがほガ　側顔（名）　横顔。○狹衣「そばがほのみすに透きて見ゆるば」

そばがき　蕎麥掻（名）　食品の名。蕎麥粉を湯に入れて掻き交ぜたるもの。

そばだつ　欹（他動下二段）　引き立つる。●起す。●もたぐる。○「耳を欹つ」「枕を欹つ」

峙(自動四段)　山の高く秀つる。●聳え立つ。

そばだつ

そばそば(副)　(一)側目に。●傍より。○源氏「そばそば見けり」(二)はしぐ。●少しづゝ。○源氏「そばぐ思ひ出でらるゝは」

そばそばし

側々し(形。形狀言シク活)　よそ〳〵し。●うとく〳〵し。●中わるし。○源氏「弘徽殿の女御また此宮とも御中そば〳〵しき故」

そばそばし

稜々し(形。形狀シク活)　かどだちたる有樣。

そばつづき

傍續(名)　裝束の一つ。小直衣(こなほし)の一名。

そばつく

(自動四段)　そばへつく。●ゆがむ。●まじめならぬ。○源氏「臨時の翫物の其物と跡も定まらぬは。そばつきざればみたるも」

そばづゑ

傍杖(名)　喧嘩を傍觀せし人の其杖にて不慮に打たるゝ事。

そばつぎ

側次(名)　能裝束の名。雜兵の鎧などの處に用ふるもの。

〔圖〕

そばむ

側(他動下二段)　横にする。●横向にする。●横目にて睨む。●惡む。○源氏「あいなく目をそばめつゝ」

そばむ

側(自動四段)　横向に爲る。○源氏「打ちまもり給へば。耻ぢらひて少しそばみ給へるかたはらめ」

そばむぎ

蕎麥(名)　そばに同じ。(和名抄)

そばふ

(自動下二段)　ざれこぼる。●ふざける。●あまえる。○枕「そばへたる小舍人童」山家集「初花の開けはじむる枠よりそばへて風の渡るなるかな」

そばうり

(名)　瓜の名。胡瓜(きうり)。(和名抄)

そばこ

蕎麥粉(名)　蕎麥の實より製したる粉。蕎麥切、蕎麥搔等に用ふるもの。

そばへ

(名)　そばふる事。○萬代「風吹く時雨の雨のそばへにはせきのをなみの立つ空もなし」

そばきり

蕎麥切(名)　食品の名。●蕎麥粉を捏れて薄く延ばし細く切りたるもの。

そばめ

側妻(名)　妾。●をんなめ。●めかけ。

そばめ

側目(名)　横目。●横向。○源氏「おのづからそばめに見ゆ」

そに

鴫。鶺鴒(名)　鳥の名。かはせみ。

そにどり

鴫鳥(名)　鳥の名。そにに同し。○記「そにどりの青き御衣を」

そにん　訴人(名)　〔一〕告訴する人。〔二〕訴人となる事。●告訴する事。△(動)―訴人す。

そにんさんだい　庶人三臺(名)　雅樂の曲名。

そぼ　祖母(名)　父母の母。●ばゞ。●おほば。

そぼめる　(自動下二段)　そぼつに同じ。びしょぬれになる。

そぼる　(自動下二段)　戯れ戯むる。●ざれる。○源氏「打ちとけそぼれたるほさる方になかしう罪ゆるされたり」

そぼつ　(自動上二段。古は四段)　びしょぬれになる。●すっぽり濡る。●濡れとほる。○徒然「田の中の細道を稲葉の露にそぼちつゝ分けゆく程」

そぼん　素本(名)　本文のみにて註解の附かざる書物。

そぼうひ　蘇芳菲(名)　雅樂の曲名。

そぼふる　(自動四段)　雨のしょぼ〳〵降る。

そべがみ　(名)　皇神(すべがみ)に同じ。神の尊稱。(神樂歌)

そと　外(名)　内ならぬ處。●ほか。●と。

そと　(副)　やはらかに。●しづかに。

そとば　卒都婆(名)　經の文句など書きて供養のため墓などに建つるもの。大かた木にて作り五重の塔に形どる。

そとうみ　外海(名)　陸地に包まれざる海。●大洋。●外洋。

そどく　素讀(名)　讀書にいふ詞。講義せずして文字のみ讀む事。

そとぐるわ　外郭(名)　城の外圍ひ。

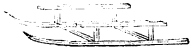
そとも　背面(名)　〔一〕山の背の土地。●北國。●北陸道。〔二〕うしろ。●はいめん。〔三〕後世轉じて外面(そとも)の意に用ふ。●そとの方。

そち　帥(名)　そつに同じ。太宰府の長官。

そち　(代)　〔一〕そなた。●そちら。●そっち。〔二〕汝。●其方。

そり　反(名)　反る事。

そり　橇(名)　寒國にて雪中を乘り行くに用ふるもの。○夫木「跡絶ゆる有乳の山の雪ごえにそりの綱手を引きわづらふ」〔圖〕



そりはし　反橋(名)　弓形に反りたる橋。●太鼓橋。

そりゃく　粗略(名)　おろそか。●疎漏。(形)―粗略なる。(副)粗略に。

そりけ 剃毛(名) 月代を剃る時落つる短かき毛。

そる 剃(他動四段) 髭、髯などを剃刀にて刈り拂ふ。

そる 反(自動四段) 一方に曲る。

そる (自動四段。又下二段) 行くべき方をはづれて他の方へ行く。●曲りて行く。●正當を失ひて他の方向に向ふ。

そほ 赭(名) 赤色の土。昔し船などに塗りたるもの。

そほど (名) そほづに同じ。案山子。(記)

そほづ (名) 案山子。●鳥おどし。……歌には僧都の意に言ひ掛けてよみ入るゝ事あり。○壬二集「秋の田に立てるそほづの姿まで霜に迷へる冬の山里」

そほづ (自動上二段、古は四段) そほつに同じ。

そわう 孫王(名) そんわうの略。○空穗「そわうの君。

そほぶね 赭船(名) 赭にて塗りたる船。○萬葉「旅にして物戀しきに山下の朱のそほぶれ沖に漕ぎゆく」

そほ 岨(名) 山の側の嶮しき所。●がけ。

そはる 添(自動四段) 添ふ。●加はる。

そはか 薩婆訶(名) 梵語。◉佛教にて咒文の詞。決定と譯す。

そはのつなで 岨綱手(名) 山の岨に引き渡したる綱。道ゆく人の助けとするもの。○久安百首「跡絶ゆる有乳の山の雪こゝにてそはのつなでを引きうわづらふ」

そはひら 岨夷(名) 岨に同じ。○竹取「その山のそはひらをめぐれば」

そはす 添(他動下二段) 添はしむる。

そがひ 背(名) うしろ。●せなか。●背面。

そがいろ 承和色(名) 黄色の異名。又緋と山吹との間の色。……そがぎくの處を參考せよ。

そがぎく 承和菊(名) 黄菊の異名。……袖中抄に云ふ「そがぎくは承和をいひなしたるなり。承和の帝黄なる色を好み給ひければ黄なる色をは承和色といふ。されば黄菊をばそがぎくと云ふ。やがてうるはしくそわぎくと書けるもあり」

そよ (副) そうじゃ。●おゝそれよ。○落窪「女笑ひてそよ事なかりつといへど」

そよろと (副) 笹。烏帽子などの物に觸れたる如き音の形容。●ばさりと。●ばたりと。○枕「長烏帽子してさすがに人に見ゆじと惑ひ出づ

るほど物につきさはりてそよろといはせたる」同「そよろとさし入るゝは吳竹の枝なり」

そよに (副) そよとに同じ。○玉葉「稻葉もそよに」

そよと (副) そよ〳〵とに同じ。

そよそよ (副) 木の葉、笹、稻葉、萩、葦などの輕く動く有樣。○「そよ〳〵吹く風」(又)そよそよと。

そよそよ (副) おゝそれよ〳〵。○萬代「そよ〳〵さこそいふべかりけれ」

そよぐ 戰(自動四段) そよそよと動く。

そよや (副) そよに感詞のやの添はりたる詞。○蜻蛉「そよやさる事ありきかし」

そよふく (自動四段) そよそよと吹く。

そよめく (自動四段) そよぐ。●そよ〳〵と音する。●立居につけて衣などの音する。○源氏「風の音の竹に待ち取られて打ちそよめくに」

そだ (名) 薪の料にする木の枝。

そだち (名) 〔一〕育つ事。●生長。〔二〕育つ時の境遇。●育ち方。

そだつ 育(他動下二段) 育たしむる。●養育する。

そだつ 育(自動四段) 生ひ立つ。●成長する。

そだて 育(名) 育て方。●しつけ。●教育。

それ 其(代) 目の前にて他人の持ちたる位の物事を指示する詞。

夫(副) 文章の書出しに置く意味なき副詞。○謠曲「それつち〳〵おもんみるに」

それがし 某(代) 〔一〕疑問代名詞。何がし。●何の誰。○宇治「三井寺にそれがしといふ僧に」〔二〕自分を指す詞。私。●拙者。

それだま 流丸(名) ねらひそれて飛び來る彈丸。

それそれ (代) 〔一〕其人々々。●それがし〳〵。●誰々。○枕「四人づゝ書立に從ひてそれ〳〵と呼び立てゝ」〔二〕其事々々。○「それ〳〵の手續」

それなり (副) 其儘。●うちやらかし。

それや 流矢(名) ねらひそれて飛び來る矢。

そそ (感) 驚の詞。そりゃ。●すは。○蜻蛉「未の時ばかりに先おひのゝしる。そゝなど人もさわくほどに」

そそろ (名) 鷲鷹などの鳥獸を食ひて後吐き出だす毛、皮などの塊。(和名抄)

そぞろに（副）〔一〕むやみに。●みだりに。○枕「何となくそゞろにをかしきに」〔二〕覺ゆず。●知らず〳〵。○空穗「北の方はそゞろにおぼさるれど此君かくだにあらせんやはと思して」△（形）―そゞろなる。

そぞろはし（形。形狀言シク活）そゞろなる有樣。（源氏）

そぞろか身の丈の高き有樣。（形）―そゞろかなる。○源氏「つぶ〳〵と肥えてそゞろかなる入の」（副）―そゞろかに。○源氏「たけだち物々しうそゞろかにゐ見を給ひける」

そぞろがまし（形。形狀言シク活）そゞろはしに同じ。○山家集「山里のそともの岡の高き木にそゞろがましき秋の蟬かな」

そぞろく（自動四段）そゞろなる擧動を爲す。●そに〳〵する。○夫木「三日月のほのめく空に秋をこめてそゞろきわたる山のはの雲」

そぞろごと（名）むやみな言葉。●でたらめ。●漫言。○徒然「是はそゞろごとなれば言ふにも足らず」

そぞろごころ（名）むやみな心。●無鐵砲な心。●先見ずの心。（空穗）

そぞろさむし（形。形狀言ク活）何となく寒し。●どこやら寒し。●むやみに寒し。○源氏「雪や、散りてそゞろ寒きに」

そそばしる（自動四段）そゝかしく走る。○狹衣「丸はまして不用なりとてそゝばしるなれば衣の裾を引きさゝむるにや倒れぬ」

そそる（他動四段）ゆすりうごかす。（神樂歌）

そそる（自動四段）聳ゆる。●屹立する。○萬葉「天ぐゝり高き立山」

そそかし（形。形狀言シク活）あわてたる有樣。●そゝつかし。○榮花「そゝかしげに急ぎわたるも彼が身には何ばかりの悅びかあらん」

そそっかし（形。形狀言シク活）そゝかしに同じ。（俗）

そさう麁相（名）粗略。●麁末。●麁忽。

そぞのかす（他動四段）勸め誘ふ。●おだてる。

そそく（自動下二段）糸、毛、髮などの亂るゝ。●そゝける。

そそぐ（自動四段）そゝくるに同じ。○源氏「若君おばしてそゝきありき給ふを」

注（他動四段）流し掛くる。●注入する。●注

射する。

そそくる（自動四段）忙はしげに振舞ふ。●せわしそうにする。○蜻蛉「天下の木草を取り集めてめづらかなる藥玉せんなどいひてそゝくりぬたるほど」

そそや（感）驚の詞。そゝにやの添はりたるもの。○清輔集「鐘の音にそゝや明けぬと驚けば」

そそぎ（名）水のとばしり。●はね。○六帖「くだら川々瀬を早みあか駒の足のそゝぎにぬれてけるかな」

そそめく（自動四段）〔一〕ささめくに同じ。●さゞやく。●私語する。（空穗）〔二〕そよめく。●ざわつく。○枕「瀧口の弓ならし香の音そめき出づるに」

そそめき（名）そゝめく事。

そつ　卒（名）兵卒。●足輕。●雜兵。

そつ　帥（名）古代の官名。太宰府の長官。●そち。

そっぱ　反齒（名）前に反り出でたる齒。●出齒。

ぞっと（副）身にしみわたる有樣。

そったう　卒倒（名）病又は驚きの爲め腦に充血して卒に倒るゝ事。△（動）—卒倒す。

そち（代）そちに同じ。（俗）

そっちう　卒中（名）病の名。中風の一種にて極めて急性なるもの。

そっくり（副）そのまゝに。

そっぷ（名）英語より來る。●肉汁の羹。

そっきょ　卒去（名）四位五位の位階ある人の死をいふ。

そつげふ　卒業（名）規定の學業を修め卒る事。△（動）—卒業す。

そつじ　卒爾（名）輕卒。●うちつけ。△（形）—卒爾の。（副）—卒爾に。

そっせん　卒先（名）先に立ちて爲す事。●さきがけ。●先陣。△（動）—卒先す。

そつぜん　卒然（副）あわたゞしき有樣。

そっす　卒（他動サ變）卒去を爲す。

そねむ　猜（他動四段）羨ましさに他を惡む。●妬む。

そねまし（形。形狀言シク活）猜むべき有樣。●妬まし。

そねみ　猜（名）猜む事。●ねたみ。

そなる（自動下二段）〔一〕馴るに同じ。○新續古今「尾上より松の梢にそなれ來て門田の稻葉風そよぐなり」〔二〕磯に馴るゝ。

そなはる　備。具（自動四段）整ふ。●揃ふ。●具備する。

そなた 其方(代) 〔一〕そちの方。●そちら。●そっち。〔二〕汝。●お手前。

そなれ (名) そなるゝ事。

そなれまつ (名) 長く其地に馴れ育ちたる松。●磯に馴れたる松。○散木「岩走る瀧のそともの そなれまつ」續古今「あだ波の高師の濱の そなれ松」

そなれぎ (名) 長く其地に馴れ育ちたる木。●磯に馴れたる木。○千載「そなれ木のそなれ〳〵てむす苔の」夫木「よと共に波こす磯のそなれ木の」

そなへふ 備(他動下二段) 備はらしむる。●設くる。●取揃ふる。

そなへふ 供(他動下二段) 神佛に奉る。

そなへ 備(名) 〔一〕用意。●支度。●準備。〔二〕兵の整理。●陣立て。

そなへもち 供(名) 〔一〕供物の略。〔二〕供餅の略。

そなへもの 供餅(名) 神佛に供ふる爲の鏡餅。

そら 供物(名) 神佛に奉る物。

そらいろ 空(名) 〔一〕天。●大空。○「朝日の空」「空ゆく雲」〔二〕虚空。●空間。●空所。○後撰「歸りけん空も知られず姨捨の山より出でし月を見し間に」〔三〕中途。●どちつかずの處。○小大君集「あはれとも草葉の露や訪はれまし道の空にて消えなましかば」〔四〕僞り。●うそ。○貫之集「誠かと見れども見えぬ七夕は空に無き名の立てるなるべし」〔五〕當て推量。●諳記。○源氏「それしかあらじと空にいかゞは推しはかり思ひ朽たさん」枕「錄をぞ空に讀む」

そらはづかし 空色(名) 天つ空の如き色。うすあさぎ。(源氏)

そらばら 空耻(形。形狀言シク活) 天に對して耻かし。(雅)

そらぼけ 空腹(名) 切腹の眞似。落城などの時敵を欺くためにする事。(謠曲)

そらおぼれ 空惚(名) そらおぼれに同じ。(著聞)

そらおぼえ (名) そらとぼけ。○壬二集「契りしはいかにと問ひてながむればそらおぼえする君は君なり」

そらおそろし 空驚(名) 諳記。

空恐(形。形狀言シク活) 天に對して恐

ろし。(雅)

そらわらひ 空笑(名) 可笑しくもなきに笑ふ事。●作り笑ひ。

そらよみ 空讀(名) そらんじて讀む事。●諳誦。

そらだのめ 空頼(名) 頼もしう思はせて頼みにならぬ約束。●あてにならぬ思はせぶり。○後拾遺「なほざりの空だのめせであはれにもまつに必ず出づる月かな」

そらだき 空炷(名) そらだきものに同じ。

そらだきもの 空薫物(名) 空氣を匂はす爲めの薫物。●香をたく事。○徒然「夜寒の風にまそばれくる空薫物のにほひも」

そらね 空音(名) 僞りて其聲を似する事。(雅)

そらね 空寝(名) 寝入りたる眞似をする事。●狸寝入。(雅)

そらねいり 空寝入(名) 空寝に同じ。

そらな 空名(名) 無き名。●無實の評判。(朝忠集)

そらなき 空泣(名) うそなき。●なきまね。

そらのいろ 空色(名) そらいろに同じ。(源氏)

そらまめ 蠶豆(名) 豆の一種。實は豌豆より大きくして足袋の形に似たり。煮又は煎りて食用とするもの。

そらごと 空言(名) うそ。●いつはり。●きょごん。

そらゆめ 空夢(名) 見ぬ夢を見たりと僞る事。○散木「子どもあらば空夢見てや語らまし」

そらめ 空目(名) (一)見違へ。●僻目。(二)だまさるゝ目に逢ふ事。●欺かるゝ事。……目はうきめからきめなどの目。○空穂「空言にて今さへも空目見たまへるかな」……(雅)

そらみつ (枕) 空より見おろしつゝの意にて大和の枕詞。その故は日本紀に「饒速日命天の磐船に乘りて大虛を翔り行き此鄕を見て天降りましき。かれこを名づけてそらみつやまとの國と曰ふ」とあるにて知るべし。○萬葉「空見つ大和の國に」

そらみみ 空耳(名) 聞き違へ。●僻耳。(雅)

そらものがたり 空物語(名) 事實ならぬ物語。●作り話。●虛談。(雅)

そらす (他動四段) それしむる。●そらしむる。

そん 孫(名) (一)まご。(二)子孫。●後胤。

そん 損(名) 利の反對。●損失。

そん 樽(名) 酒を入るゝ器。●たる。○謠曲「そんを持

たせて參りたり」

そん　尊(形)　手紙にて敬意を表する爲に添ふる詞。○「尊顔」「尊書」「尊君」「尊師」「尊兄」

そむ　初(他動下二段)　他の動詞に添へて初むるの意を示す詞。○「咲きそむる花」「物言ひ初めし人」

そむ　染(他動下二段)　染ましむる。

そむ　染(自動四段)　その色になる。

ぞんい　存意(名)　存じ寄り。●意見。

そんぼう　存亡(名)　存在と滅亡と。

そんとく　損得(名)　損と得と。

そんちゃう　尊長(名)　目上の人。

そんれう　損料(名)　器物衣類などの貸し賃。

そんわう　孫王(名)　天皇の御孫。●そわう。

そんがい　損害(名)　損。●損失。

そんだい　尊大(名)　大風。●横柄。△(形)—尊大なる。(副)—尊大に。

そんそう　尊崇(名)　あがめ尊ぶ事。●尊敬。●崇敬。△(動)—尊崇す。

ぞんねん　存念(名)　存じ寄り。●存意。●意見。

そんらく　村落(名)　村里の一部落。●村。

そむく　背(他動下二段)　背の方を向けしむる。

そむく　背(自動四段)　(一)うしろむきになる。(二)違ふ。●違背する。(三)叛君主に服せずして抵抗する。●謀反する。

ぞんぐわい　存外(副)　存じの外。●思ひの外。●意外に。

そんけい　尊敬(名)　尊び敬ふ事。△(動)—尊敬す。

ぞんぶん　存分(名)　思ひの儘にする事。△(形)—存分なる。(副)—存分に。

そんがう　尊號(名)　尊敬して奉る稱號。●尊稱。

そんえい　尊詠(名)　和歌の尊稱。神佛の詠に係るものを云ふ。○謠曲「かく尊詠のいつはりなくば」

そんゑんりう　尊圓流(名)　書法流派の名。伏見天皇の皇子青蓮院宮尊圓法親王の創め給ひし書風。御家流ともいふ。

そんざい　存在(名)　其儘にて殘り在る事。△(動)—存在す。

そんきょ　蹲踞(名)　しゃがむ事。●うつくまる事。△(動)—蹲踞す。

そんきゃう　尊敬(名)　そんけいに同じ。△(動)—尊敬す。

ぞんめい　存命(名)　ながらふる事。●存生。●生存。

そんじ　損(名)　破損。
ぞんじより　存寄(名)　思ふ所。●存意。●意見。
ぞんじよる　存寄(自動四段)　思ひつく。●考へ付く。
ぞんじよらず　(副)　手紙の詞。思ひ寄らず。●意外にも。●はからず。
そんしゃう　尊稱(名)　尊敬していふ稱號。●尊號。△(動)—尊稱す。
ぞんじゃうジョう　存生(名)　生命のある事。●生存。●存命。
そんしつ　損失(名)　損。●損害。
そんしゃ　村社(名)　現今神社格式の一つ。鄉社の次に位する社。
そんじゃ　尊者(名)　(一)佛教にて羅漢の尊稱。(二)昔し大饗の正客の稱。○增鏡「此内大臣また右大臣に上りて大饗などめづらしく東にて行ふ。京より尊者を始め上達部殿上人多くとぶらひましけり」
そんぴ　尊卑(名)　尊き事と卑しき事と。●貴賤。
そんべゴう　孫苗(名)　子孫。●苗裔。●後胤。
そんまゼう　損耗(名)　損。●損失。
そんす　存(他動サ變)　存在させる。
そんす　存(自動サ變)　存在する。
そんす　損(他動サ變)　(一)損ぜさする。(二)しそこなふ。●あやまつ。
ぞんす　損(自動サ變)　破損する。
ぞんす　存(他動サ變)　他人に對して云ふ詞。(一)思ふ。●考ふる。(二)知る。●心得る。●覺ゆる。
そう　僧(名)　俗緣を斷ちて佛に仕ふる人。●僧徒。●僧侶。●出家。●法師。●比丘。●桑門。●沙門。●緇徒。●釋氏　●坊主。
そう　層(名)　かさなり。
そう　艘(名)　船を數ふる詞。○「帆前船二艘」
そう　宗(名)　本元。●元祖。●本家。
そふ　添(他動下二段)　添はしむる。
そふ　添(自動四段)　(一)加はる。●增す。(二)伴ふ。●附く。●一つになる。(三)並行する。●同じ方向に從ひ行く。
さう　姓(名)　しゃうに同じ。●せい。●うぢ。(榮花)
さう　箏(名)　十三絃の琴。
さう　笙(名)　しゃうに同じ。笙の笛。
さう　草(名)　草書の略。

さう　莊(名)　しやうに同じ。莊園。

さう　雙(名)　〔一〕兩方。●左右。○「雙の眼」〔二〕一對のものを數ふる詞。○「屏風一雙」

さう　相(名)　〔一〕かたち。●すがた。●もやう。〔二〕人相。

さう　左右(名)　〔一〕左と右と。○「左右の大臣」〔二〕思居の摸樣。●又其報知。○「吉左右」

さう　(副)　左樣。●然り。●その通り。

ぞう　(名)　族に同じ。一族。●親族。○源氏「只今の世に此御ぞうぞめでられ給ふなる」

ぞう　官名。尉(じよう)に同じ。■椽(じよう)に同じ。○源氏「今日は右近の藏人のぞう(尉)仕う奉れり」古今「文屋の康秀が參河のぞう(椽)になりて」

ぞう　增(名)　能面の名。增阿彌の作り創めたるものにて女神、天女などに用ふるもの。

ざう　象(名)　熱帶產の獸の名。形は豚に似て最も大きく鼻長く垂れて伸縮自在なるもの。

ざう　像(名)　神、佛、人に似せて寫し取りたる形。●かた。●肖像。

ざう　藏(名)　藏書、藏板の略。

ざふ　雜(名)　〔一〕入交り。●ごたまぜ。〔二〕和歌にて四季、戀の內に入らざる種々の題。

ざふ　(自動)　候ふの略。○謠曲「なんぼふ無念の事ざうぞ」

そうゐ　僧位(名)　僧の位階。●僧の資格。

さういん　創意(名)　始めての工夫。

そうゐ　相違(名)　ちがひ。●差異。

そうろん　贈位(名)　人の死後に追吊して贈り賜はる位。

さうろん　總論(名)　其事柄に關して大體の議論。●汎論。

さうろん　爭論(名)　言ひ合ひ。●喧嘩。△(動)爭論す。

さふらふ　候(自動四段)　さぶらふに同じ。

さふらふ　候(助動四段)　さぶらふに同じ。

そうはつ　總髮(名)　男の結髮する時。額を剃らず又前髮を取らずして總體同じやうに髻の處に結びあぐる事。

さうばん　早晚(副)　早かれ遲かれ。●いつか一度は。

ざうはん　藏板(名)　所藏の板木。●所藏の板木にて刷りたる本。

そうに　僧尼(名)　僧と尼と。

ざつぷに　雜煮(名)　餅に野菜など加へて煮たる汁。一月元日祝の膳に用ふるもの。

そうにりやう　僧尼令(名)　大寶令の一部門。僧尼の制度を載せたるもの。

そうにん　奏任(名)　其省の大臣より奏聞して任命する官の稱。

さうにん　相人(名)　人相見。(源氏)

ざつぷにん　雜人(名)　種々入り交りの人。

ぞうほ　增補(名)　增し補ふ事。●增し補ひたるもの。……書物など。△(動)—增補す。

ざうほん　藏本(名)　藏書に同じ。

そうばう　僧坊(名)　僧の住む家。(源氏)

そうべつ　送別(名)　旅立つ人を送る事。△(動)—送別す。

そうべつ　總別(副)　總體。●全體。●元來。●大體。

そうと　僧徒(名)　僧たる人々。●僧侶。

さうたう　相當(名)　適當。●至當。

ぞうたふ　贈答(名)　(一)遣り取り。(二)詩歌の遣り取り。……△(動)—贈答す。

さうどうしう　曹洞宗(名)　禪宗の一派。隋元禪師の我國に傳へたるもの。

そうとく　總督(名)　官名。軍事の總裁。

さうどく　(自動四段)　物さわがしくする。●ざわくする。●急ぎ立つる。○源氏「何の心ばせありげもなくさうどきほこりたりしに」

そうぢ　總持(名)　陀羅尼の譯語。(佛教)

さうぢ　掃除(名)　塵などを掃ひ捨つる事。△(動)—掃除す。

そうでう　雙調(名)　雅樂の調子の名。○源氏「物の師ども殊にすぐれたる限り雙調吹き立てゝ」

ぞうちやう　增長(名)　自慢心の次第に高まる事。●我儘勝手の募る事。△(動)—增長す。

さうちう　草虫(名)　草村に鳴く虫。

そうり　總理(名)　總體を整理する事。●總體を整理する人。△(動)—總理す。

ざうり　草履(名)　藁、竹の皮などにて作りたる履物。

ざうりとり　草履取(名)　德川時代にて主人履き替の草履を持ち武家の供する下僕。

そうりよ　僧侶(名)　僧徒に同じ。

そうりやう　總領(名)　父の跡を總べて領すべき權ある子。●嫡子。●長子。

そうりだいじん 總理大臣(名) 現行の官制。內閣の首席たる大臣。●首相。

さうりん 雙林(名) 釋迦の入滅せし沙羅雙樹の林。○謠曲「雙林の入滅」

そうりんたう 層輪塔(名) 輪を重ねたる寺の塔。

ざうりうふくやう 造立供養(句) 卒都婆を造り立てゝ死者の供養を爲す事。(佛教)

ぞうるゐ 族類(名) 一族親類。(源氏)

さうおう 相應(名) 適當。

さうか 早歌(名) 〔一〕催馬樂中の一種。謠方の早きもの。〔二〕足利時代に行はれたる一種の謠物。

さうが 唱歌(名) 〔一〕雅樂の笛の譜を歌ふ事。○竹取「或は歌をうたひ或はさうがをし」〔二〕歌をうたふ事。

ぞうか 增加(名) 增し加ふる事。△(動)—增加す。

さうが 象眼(名) さうがんの略。○著聞「打敷二藍のさうがに白き文を縫ひたり」

そうがかり 總掛(名) 總體の人々の骨を折りて其事に働く事。

さうがな 草假名(名) 平假名の一名。

さうがん 雙眼(名) 兩方の眼。

ざうがん 象眼(名) 唐の絹の一種。細き泥畫などしたるもの。○濱松「蘇枋の裾濃の象眼の几帳」

そうがく 奏樂(名) 音樂を奏する事。△(動)—奏樂す。

ぞうがく 增額(名) 額を增加する事。△(動)—增額す。

そうがみ 總髮(名) そうはつに同じ。

ぞうよ 贈與(名) 贈り與ふる事。△(動)—贈與す。

ざうよう 雜用(名) 種々の入用。●雜費。

そうだ 曹達(名) 〔一〕英語より來る。化學上の詞。ソダユームの酸化したるもの。〔二〕炭酸曹達の略。

そうたい 總體(名) 其物の全部。●全體。

そうたい 總體(副) 一體。●總別。●全體。●元來。●總じて。

そうだい 總代(名) 總體の人の代理。●總名代。

さうだん 相談(名) 相謀る事。●話合。●談合。

さうれい 葬禮(名) 葬式。●葬儀。

さうれい 壯麗(名) 立派にて美麗なる事。

ぞうそ 曾祖(名) 曾祖父に同じ。

ぞうそぼ 曾祖母(名) 祖父母の母。●ひばゝ。

ぞうそん 曾孫(名) 孫の子。●ひまご。●ひこ。

そうそう 匆匆(副) 落ち付かぬ有樣。又忙はしき有樣。

さうそう 葬送(名) 葬を送る事。●葬式。

さうさう 早々(副) はやく。●いそいで。

さうざう 創造(名) 始めて工夫して作り出だす事。△(動)—創造す。

さうざう 想像(名) かくあるべしと思ひやる事。●無き物事をも有りそうに思ひやる事。△(動)—想像す。

ざふざふ 雑々(名) 種々入り交る事。●雑多。○源氏「ざふ〳〵の人なきひまを思ひ定めて」

さうざうし (形。形状言シク活) (一)ものさびし。○伊勢集「大和に三月ばかり住むにさうざうしく寺めぐりせんと思ひて」(雅) (二)さわがし。(俗)

そうぞく 僧俗(名) 僧と俗人と。

さうぞく 相續(名) 其人の跡を繼ぐ事。●跡取り。△(動)—相續す。

さうぞく 裝束(名) しやうぞくに同じ。(一)古へ貴族の用ひたる裝束衣服の總名。袍、直衣、狩衣の類。(二)舞樂能樂などにて演者の着する衣服。(三)衣服。(四)すべて神前、佛前、室内などの裝飾品。●又器物などの飾り。

さうぞく 裝束(自動四段) 裝束を着る。●裝飾する。○源氏「いと清げに打ちさうぞきて出で給ふ」同「唐めいたる舟作らせ給ひけるいそささうぞかせ給ひて」

ぞうそふ 曾祖父(名) 祖父母の父。●ひぢゝ。

そうづ 僧都(名) 古代僧侶の官名。僧正の次に位するもの。

さうづがは 三途川(名) さんづがはに同じ。

さうなく 左右無(副) 兎角の考なく。●ためらひなく。●用捨なく。○今物語「さうなく人を笑ふ事あるべくもなき事にや」△(形)—さうなき。

さうなし 雙無(形。形状言ク活) ならびなし。●比類なし。●ぶさうである。(雅)

ざふぐ 雑具(名) 色々の道具。

ざうくわ 造化(名) (一)天地間萬物の自然力によりて造らるゝ事。(二)天地萬物を造りたる神。●造物主。

そうくわん 僧官(名) 僧侶の官位。僧正、僧都、律師、法橋、法眼、法師の類。

さうくわん **ぞうくわん** （名） 古代の官名。……さくわんを見よ。

贈官（名） 其人死して後に追吊して賜はる官。

ざふやく 雜役（名） 荷物の持ち運びなど種々樣々の勞働の役目。

そうけ **ざうげ** 僧家（名） 僧の家。●僧の道。

そうけい **そうけい** **そうけい** 象牙（名） 象のきば。種々の細工に作るもの。

總計（名） 締め高。●合計。●通計。

崇敬（名） 尊敬に同じ。△（動）—崇敬す。

糟雞（名） 食品の名。蒟蒻を切りて薄き垂れ味噌にて煮たるもの。

さうけん 壯健（名） すこやか。●達者。●健康。△（形）—壯健なる。（副）—壯健に。

ぞうげん 增減（名） 增す事と減する事と。●加減。△（動）—增減す。

ざうげん 讒言（名） ざんげんに同じ。○源氏「いかなるざうげんなどの有りけるにか」

そうふ **さうふ** **ざうふ** 送付（名） 送り屆くる事。△（動）—送付す。

菖蒲（名） しやうぶ。●あやめ。（雅）

臟腑（名） 動物の腸内にある機關。漢方醫の謂はゆる五臟六腑。

さうふれん **さうぶれん** **ざうぶっしゃ** **そうぶん** 想夫戀。想夫憐。相府蓮（名） 雅樂の曲名。（名） さうふれんに同じ。

造物者（名） 造化の神。●上帝。

造物主（名） 造物者に同じ。

處分（名） 所領。●所有地。○詞花「親のそうぶんを故なく人に押し取られけるを」

さうぶのこし 菖蒲輿（名） 五月五日に菖蒲もて葺きたる輿。○讃岐典侍日記「さうぶのこし朝がれひの坪にかき立てゝひまもなく葺きしこそ」

さうこ 倉庫（名） くら。

さうこりゃう 倉庫令（名） 大寶令の一部門。

さうこん 草根（名） 草の根。……多く藥種にする時に云ふ。

さうごん 莊嚴（名） しやうごんに同じ。

ざうごん 雜言（名） 罵詈の口上。●惡口。

そうがう 僧綱（名） 古代僧官の稱。僧正、僧都、律師の總名。

さうがう 相好（名） 顏にあらはるゝ樣子。●顏すがた。……多く神佛の容貌に云ふ。（謠曲）

そうがうくび 僧綱領（名） そうがうごろもに同じ。

そうがうごろも 僧綱衣(名) 〔一〕僧綱となりたる僧の着る襟立衣。〔二〕小袖の襟を折らずして僧綱の襟立衣の如き形にする古代衣服一種の着用法。

さうえい 造營(名) 建築。●普請。

さうでん 相傳(名) 代々受け傳ふる事。●人より人に傳授する事。△(動)—相傳す。

さうあん 草庵(名) 草葺の庵。

さうあん 草案(名) 下書き。

そうさい 總裁(名) 取締役の頭。●總理。

そうざい 總菜(名) 平常の食事の菜。

そうさく 搜索(名) 探り求むる事。●探索。△(動)—搜索す。

さうぎ 葬儀(名) 葬禮。●葬式。

さうぶき 雜木(名) 色々まじりたる木。

ざうきん 雜巾(名) 拭き掃除するに用ふる布の刺したるもの。

そうめい 聰明(名) 古へ禁中にて行はれし釋奠の日の供物。●すなはち白黑の餅、粱飯、栗黄、乾棗。

さうめいらく 宗明樂(名) 雅樂の曲名。

さうめん 索麵。素麵(名) 食品の名。小麥の粉を蕎麥切の如く作りたるもの。

そうみやうだい 總名代(名) 總代に同じ。

さうし 册子。草紙。草子。雙子(名) 〔一〕本。…卷物、折本に非ずして綴ぢたるもの。〔二〕隨筆、物語などの本。〔三〕習字の用紙を綴ぢたる本。

さうじ 草字(名) 〔一〕草書に同じ。〔二〕書判の種類。名乘の文字を最も草書に略して自身の外の人には讀まれぬやうに書く事。

さうじ 障子(名) しやうじに同じ。今の唐紙、襖の稱。(雅)

さうじ 精進(名) しやうじんに同じ。(雅)

ざうし 曹司(名) 〔一〕女官などの住む部屋。●女部屋。●局。〔二〕男にも云ふ。●詰所。●男部屋。〔三〕中古大學寮にありて教授する所。

ざつし 雜仕(名) 雜役をする下男。

ざつじ 雜事(名) 種々の用事。

さうしぢ 草子地(名) 物語などにて記者の言葉。

さうしょ 草書(名) 漢字を最も略して書く一種の書體。

ざうしょ 藏書(名) 我藏の中に所持せる本。

そうしょう 總稱(名) 總體の稱へ。●總名。△(動)—總稱す。

そうしゃうう 宗匠(名) 和歌、連歌、俳諧、茶道などの老練家。又其師範。

そうじゃうう 奏上(名) 天皇に言上する事。●奏聞。△(動)—奏上す。

そうじゃうう 僧正(名) 古代僧官の最上に位するもの。

ぞうじゃうまん 增上慢(名) 佛教にて我慢心の增長せし人を云ふ。天狗は即ち其代表者。

さうしょく 裝飾(名) かざる事。△(動)—裝飾す。

さうじん 精進(名) しゃうじんに同じ。(雅)

そうじんぶ 總神分(名) 總べての神々。(謠曲)

そうしゃ 奏者(名) (一)天皇に取次ぎて奏聞する役人。(二)關白、將軍に取次ぎて事を申し上ぐる役人。

そうしゃ 總社(名) 其國の首座なる社。昔し國々の國府にありて以下の諸社を總理支配せしもの。●一の宮。

そうしゃばん 奏者番(名) 德川幕府にて奏者を勤むる役の名。

さうして (副) 而して。●かくありて。●そして。●そこで。(俗)

そうじて 總(副) すべて。●ひっくるめて。

さうしき 葬式(名) はうむりの儀式。●葬禮。●葬儀。

ざふしき 雜色雜式(名) 禁中または公家にて雜役をする下男。

さうしゅ 喪主(名) 葬式を行ふ主たる人。●もしゅ。●施主。

そうじゅ 奏授(名) 古代位階の一資格。大臣より奏聞して授くるものにて六位七位の稱。今の奏任に似たり。

さうじゅ 雙樹(名) 印度の木の名。沙羅雙樹の略。……此木の下にて釋迦入滅せし故常に其意にて用ふ。

さうしん 早春(名) 初春に同じ。陰曆にては正月陽曆にては二月頃。

そうじゅふらうづきん 宗十郎頭巾(名) 男子用頭巾の一種。寛永の名優澤村宗十郎の被り創めたるもの。

さうじみ 正身(名) 本人。●當人。○落窪「さうじみは何の心げさうもなくておはす」

さうじもの 精進物(名) しゃうじんもの。●獣、鳥、魚の肉ならざるもの。(土佐)

さうび 薔薇(名) せうび。●ばら。●いばら。○榮花「さうび牡丹唐撫子」

そうべう 宗廟(名) 帝室の御先祖を祭りたる社。

ざふひやうし 雑兵(名) 兵卒。

そうもん 奏聞(名) 天皇に申し上ぐる事。●奏上。△(動)—奏聞す。

そうもん 總門(名) 寺の大門。

さうもく 草木(名) 草と木と。

さうもじ 草文字(名) 草書に同じ。

さうせい 早世(名) わかじに。●夭死。△(動)—早世す。

そうぜん 僧膳(名) 僧に饗する膳部。(宇治)

そうせき 送籍(名) 戸籍を送付する事。△(動)—送籍す。

そうす 奏(他動サ變) (一)天皇に申し上ぐる。●奏聞する。(二)事を成就さする。(三)音樂をする。

さうす 相(他動サ變) トなひて吉凶を定むる。●家相を見る。●人相を見る。

さうず 請(他動サ變) 招く。●請待する。○竹取「ともあれかくもあれ先づさうじ入れたてまつらん」

ざうす 藏(他動サ變) 所藏する。●所持する。

その 園(名) 花、菓物など植る生ふする地面。

その 其(代) それを名詞に續くる時の詞。○「その本」「その道」

そのいろづき 其色月(名) 八月の異名。

そのはう 其方(代) 汝。●貴樣。

そのかみ 其上(名) 昔。●古代。●當時。○伊勢「今見ればよくもあらざりけり。そのかみは是やまさりけん」

そのかみ 其上(副) (一)其昔。●其時代に。●當時。○源氏「そのかみ思ひ侍りしやう」(二)其時。○大和「かくて即ち來にけり。そのかみ女は塗籠に入りにけり」

そのふ 園生(名) 園に同じ。

そのうち 其内(副) 近き内に。●近日。

そのうへ 其上(副) 且。●加ふるに。

そのまま 其儘(副) 少しも變らずに。

そのこま 其駒(名) 神樂歌の曲名。

そのもと 其許(代) 其方。●汝。

そく 職(名) しょくに同じ。職務。●官職。●職業。○源氏「左樣の事繁きそくには堪へずなん」

そく 束(名) 〔一〕束ぬる事。○「束のよき薪」〔二〕束れたる物。○「薪三百束」〔三〕稻十把。〔四〕矢の長さを計るにいふ詞。手にて握りたる其指四本の幅。

そく 足(名) 足にはくものを數ふる詞。○「足袋一足」「下駄一足」「靴一足」

そく 仄(名) 詩學上の詞。漢字の上聲去聲入聲三音の稱。

そく 退(自動四段) しりぞく。●のく。●離るゝ。○記「雲ばなれそき居りとも我忘れめや」

そく 退(他動下二段) しりぞくる。●のくる。●離す。○土佐「萘漕ぎそけて御舟來にけり」

そぐ (他動四段) 〔一〕減らす。●削る。●省略する。●儉約する。○增鏡「松の柱葦葺けろ廊など。けしきばかり事そきたり」〔二〕端を切り捨つる。○「竹をそぐ」「髮をそぐ」

そく 賊(名) 〔一〕ぬすびと。●盜賊。〔二〕謀反人。●不忠の臣。

ぞく 族(名) やから。●親族。●一族。●身うち。

ぞく 俗(名) 〔一〕普通一般の習。●世俗。〔二〕風俗。〔三〕雅の反對。●野鄙。●無風流。〔四〕僧に對して普通の人の稱。

そくゐ 即位(名) 〔一〕天皇の御位に上り給ふ事。〔二〕即位の大禮。●即位式。

そくひ 續飯(名) 飯粒を練りたる糊。○枕「遠き所より思ふ人の文を得て固く封じたるそくひなど放ちあくるなど」

そくろう 贖勞(名) 官位昇進を請ふための賄賂。○源氏「大臣にならんそくらうを取らんなどう」

そくばく 束縛(名) 縛る事。●自由にさせぬ事。△(動)束縛す。

そくど 速度(名) 速力の程度。

ぞくと 賊徒(名) 朝敵。

そくたう 即答(名) 即座に返答する事。△(動)即答す。

そくどう 贖銅(名) 贖勞に同じ。

そくぢょ 息女(名) 他人の娘の尊稱。●令嬢。

ぞくおん 俗塵(名) 世間の面倒なる事。

そくりゃうう 測量(名) 土地山川の高低深淺廣狹等を測る事。△(動)—測量す。

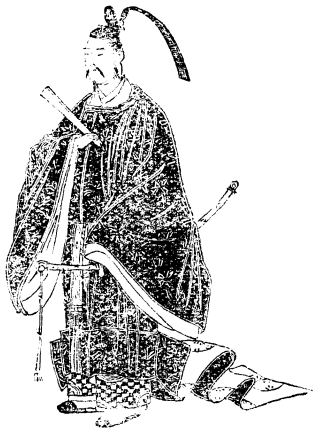
そくりょく 速力(名) 物の動く早さ。

そくゎつ 疎濶(名) 遠々しくなりたる事。●久濶。●疎遠。

そくゎか 足下(代) 相對する人を尊びて云ふ詞。●貴殿。●御身。

ぞくッか 俗歌(名) 卑俗の。

そくたい 束帶(名) 古代の官吏正式の服裝。すなはち冠、袍、下襲、袙、單、小袖、表袴、大口、襪、裾、石帶、太刀、笏を具足したる裝束。(圖)



ぞくたい 僧體(名) 僧體にあらざる世人普通の姿。

ぞくだん 俗談(名) 俗事の談話。

ぞくたく 囑託(名) 賴む事。●委托。△(動)—囑託す。

ぞくたくぞくたく 續々(副) 引きつゞき〳〵。●跡から段々と。

ぞくむ 俗務(名) 世俗の事務。●俗事。

ぞくッくゎい 賊魁(名) 賊の巨魁。●首魁。

ぞくぐん 賊軍(名) 官軍に抵抗する軍勢。

そくッけつのくゎん 則闕官(名) 太政大臣を見よ。

ぞくげん 俗言(名) 普通の言語。●俗語。

ぞくぶん 俗文(名) 普通の文。●通俗文。

ぞくご 俗語(名) 普通の言語。●俗言。

そくッこん 即今(副) 當時。●目今。●目下。

そくッこうし 即功紙(名) 膏藥の一種。

そくッこく 即刻(副) 即時。●直に。

ぞくッこく 屬國(名) 一の大國に附屬して其支配を受くる國。

そくゐ 觸穢(名) しょくゑに同じ。(空穗)

そくえい 即詠(名) 即吟に同じ。

そくざ 即座(名) 即席に同じ。

そくさい 息災(名) (一)災難を息むる事。●災難除。○枕「息災の祈り」(二)無事。●無難。

そくざい　贖罪(名)　しょくざいを見よ。

ぞくきょく　俗曲(名)　通俗なる唄音曲の總名。琴三味線長唄端唄の類。

そくぎん　即吟(名)　即座に詩歌俳句など作る事。●即詠。

そくきじゅつ　速記術(名)　符號を用ひて演說講義等を迅速に筆記する術。

そくめつ　即滅(名)　即座に滅する事。○「七難即滅七福即生」(佛教)

ぞくめつ　族滅(名)　三族を滅する刑罰。

ぞくみょう　俗名(名)　〔一〕雅號に對して云ふ。通稱。〔二〕戒名に對して云ふ。死者生前の通稱。

そくし　即死(名)　即座に死ぬる事。△(動)—即死す。

そくじ　即時(副)　直に。●即刻。(又)—即時に。

そくじ　仄字(名)　仄の文字。

ぞくじ　俗事(名)　世間用、●俗務。

ぞくじ　俗字(名)　普通に用ひ誤り居る文字。

そくしょう　即生(名)　即座に生ずる事。(佛教)

ぞくしょう　俗稱(名)　〔一〕普通の名稱。〔二〕俗名。●通稱。

そくじつ　即日(副)　其日の中に。

そくしっき　足疾鬼(名)　佛教にて云ふ惡魔の一種。足の早き鬼。

ぞくじん　俗人(名)　無風流なる人。

そくしんそくぶつ　即身即佛(句)　佛は他に在らず。一たび悟れば我身すなはち佛と爲り得るの意。(佛教)

そくしょう　東脩(名)　弟子入の時の進物。

そくび　首に同じ。○平家「何者ぞ狼藉なり。そくび突けと仰せらるれば」

そくせい　速成(名)　速に成就する事。

ぞくせつ　俗說(名)　普通世間に行はるゝ說。

そくせき　即席(名)　其場にて直にする事。○「即席料理」

そくせき　足跡(名)　旅人などの歩きて行きたる足の跡。

ぞくせき　族籍(名)　身分。華族、士族、平民の類。

ぞくす　屬(自動サ變)　附き從ふ。●附屬す。

そや　初夜(名)　〔一〕しょやに同じ。〔二〕佛家にて初夜にする讀經の勤め。

そや　征矢(名)　軍陣に用ふる普通の矢。

そやつ　其奴(代)　人を罵りて呼ぶ詞。●そいつ。●あ

いつ。●きゃつ。

そま

杣(名)　〔一〕材木を伐り出す山。〔二〕其山より伐り出す材木。〔三〕之を伐り出す人。

そまいた

杣板(名)　杣木を挽きて板にしたるもの。(夫木)

そまる

染(自動四段)　其色となる。●感染する。

そまかはゥ

杣河(名)　杣木を伐りて流し出す山川。○夫木「信樂の眞木の杣河氷して影も流れぬ冬の夜の月」

そまがた

杣形(名)　杣山の如き形に茂りたる林または叢。○夫木「杣形を風わたるらし夏山の檜原のそよぐ音の涼しさ」同「きりぐすす庭の蓬の杣形に聲吹き迷ふ霜の夕風」

そまつ

麁末。粗末(名)　物事の鄭重ならぬ事。●品のよからぬ事。●疎漏。●粗略。(形)―粗末なる。(副)―粗末に。

そまくだし

杣下(名)　杣木を山川に流し下す事。○萬代「五月雨は丹生の河原の杣くだし引かぬによする象の山川」

そまくさ

蘇莫者(名)　そまくしゃに同じ。

そまくしゃ

蘇莫者(名)　雅樂の曲名。

そまやま

杣山(名)　杣木を伐り出す山。

そまやまがはゥ

杣山河(名)　杣河に同じ。○堀川「秋霧の杣山川に立ちぬれぼ下す筏の音のみぞする」

そまぎ

杣木(名)　杣山の立木。又伐りて材木としたるもの。○夫木「まきもくの檜原にまじる薄紅葉これや杤木の杣木なるらん」

そまびと

杣人(名)　杣木を伐るを業とする人。●木挽。

そげき

狙擊(名)　狙ひ擊つ事。△(動)―狙擊す。

そふ

祖父(名)　父母の父。●ぢぃ。●おほぢ。

そこ

底(名)　物事の行きつまりたる極處。●奥。●箱桶などの下端の隔て。

そこ

塞(名)　とりで。●堡壘。(和名抄)

そこ

其處(名)　その處。●そちら。●その方。●其點。

そこ

其處(代)　そなた。●お手前。○源氏「そこにこそ多くつどへ給ふらめ」

そご

齟齬(名)　物事の喰ひ違ふ事。△(動)―齟齬す。

そこひィ

(名)　底に同じ。●かぎり。●極處。○土佐「棹させどそこひも知らぬわたつみの深き心を君に見るかな」

そこはかと

(副)　其處と指して。●何處と指して。○

拾遺愚草「そこはかと見えぬ山路の夕煙立つにぞ人のすみかをも知る」

そこはかとなく　（副）　幾何と數限りも無く。●數へも切れぬほど。●かすかに。○新古「神無月風に紅葉の散る時はそこはかとなく物ぞ哀しき」

そこばく　若干（數）　不明なる數をいふ詞。●幾何。

そこどころ　（名）　其處に同じ。○和泉式部集「君がため求めたるかな雪ふればそこどころとも見えぬ山路に」

そこそこ　其處々々（代）　其處。○宇治「そこ〳〵に侍るものなり」

そこつ　粗忽（名）　不注意。●粗略。●無念。●過失。●輕卒。△（形）―粗忽なる。（副）―粗忽に。

そこなふ　損（他動四段）　傷つくる。●こはす。●破損する。●害する。●あやまつ。

そこら　（副）　數限りもなく。●多く。○萬代「諸人のそこら祈りししるしあらば八十を君に傳へざらなん」△（形）―そこらの。

そこらくに　（副）　そこらに同じ。●多く。●色々と。○萬葉「そこらくに固めし事を」

そけん　素絹（名）　〔一〕織文なき生絹。〔二〕裘代（きうたい）の一名。◎素絹にて作れる故に云ふ。

そかふ　麁絹（名）　昔の絹の一種。麁く織りたるもの。

そこまめ　蘇合香（名）　雅樂の曲名。

底豆（名）　病の名。足の裏に出來る豆の如き腫物。

そこで　（副）　此に於て。●よりて。●ゆゑに。（俗）

そこひ　（名）　病の名。目の見えぬ病。

そこもと　其處許（名）　其場所。●其土地。

そこもと　其處許（代）　そなた。●お手前。

そゑ　諸衛（名）　六衛府。○源氏「そゑの廳飼」

そへ　添（名）　添ふる事。●加ふる事。

そへに　（副）　さへにの轉。○拾遺愚草「けふそへに冬の風とは思へども絶えずこきおろす四方の木の葉は」

そへにして　（副）　それじやというて。○古今「そへにとてとすればかゝりかくすればあないひしらずあふさきるさに」萬代「そへにして身なば心にまかせてきさて住む山を何か歎かん」

そへぢ　添乳（名）　幼兒に添寢して乳を飲ますること。

そゑん

疎遠(名)　久しく音づれぬ事。●久濶。●無沙汰。△(形)―疎遠なる。(副)―疎遠に。

そへうた

(名)　古今集の序に擧げたる六種の歌体の一つ。詩の六義の風に當てたるもの。……其序に「其六種の一つにはそへうた」とありて古註に「大鷦鷯の帝をそへ奉れる歌。難波津に咲くやこの花冬ごもり今は春べと咲くやこの花」

そへぐるま

副車(名)　ひとだまひに同じ。女中などの乘る車。(和名抄)

そへて

(副)　〔一〕加はりて。●增して。○源氏「年月にそへて」〔二〕その上に。●かて〻加へて。○源氏「形のいとも清らなるにそへて心さへこそ人には異に生ひ出で給へれ」

そで

袖(名)　そは衣では手の意。◎〔一〕衣服の肩より手先までを被ふところ。〔二〕鎧の兩の肩の處に垂れたる草摺の如きもの。〔圖〕〔三〕すべて衣服の袖の如く物の兩側に附屬せるもの。

そでばん

袖判(名)　足利時代の詞。官の認可を證明する捺印。

そでぼそ

袖細(名)　素襖の一種。其袖を細く先細に縫ひたるもの。

そであふぎ

袖扇(名)　扇の一種。女中持の小さく美しき品。

そでがひ

袖貝(名)　〔一〕貝の名。忘れ貝の一名。〔二〕貝の名。阿古屋貝の一名。

そでがらみ

袖搦(名)　もぢりを見よ。

そでがさ

袖笠(名)　袖を頭に被りて笠に代用する事。

そでがき

袖垣(名)　一の垣より一段低くして別に造り附けたる垣。

そでがき

袖書(名)　〔一〕忘れぬ爲に紙の傍に書き付け置く手扣。◎袖は身の傍にあるものなる故の名。〔二〕手紙にて本文より行を下げて書く文面。最初の餘白などに跡より書き入る〻もの〻類。

そでかすひめ

袖貸姫(名)　七夕に祭らる〻織女の異名。

そでつ

蘇鐵(名)　熱帶植物の名。庭園に植ゑ又は盆栽として珍重するもの。

そでつけごろも

袖着衣(名)　賤民の着る袖無しの如き

衣に對して貴人の着る袖の長き衣を云ふ。（萬葉）

そでづきん　袖頭巾（名）　御高祖頭巾（おとそづきん）の一名。

そでなしばおり　袖無羽織（名）　袖のなき羽織。小見老人などの着るもの。

そでのこ（名）　稻の異名。◎伴信友の説に「僧の托鉢し米を乞ひありくに與ふる米を鉢の子と云ふを思へば。古は僧の托鉢して米を受くる時袖をひろげ鉢を載せて米を受くる習なりけんか其を袖の子といひしなるべし」（散木）

そでぐち　袖口（名）　手先の方に屬する袖の端。……古代貴女の裝束は下着より上着の方を段々と短く作りたる故種々の色重なりて美しければ特に之を書き立てゝ愛ではやす事物語書などに多し。物見る時車に乘る時などは簾の下より之を外に出だすを常とす。○今昔「清げなる女房の袖口ども透きたり」

そでぐくり　袖括（名）　狩衣、水干、長絹などの袖口に附きて端長く下りたる打紐。◎之にて袖を括り上げ襷にするの用を爲す故の名。

そでぐくみ（名）　袖の中に包み入れて持つ事。○源氏「あやしき物に火を唯ほのかに入れて袖ぐゝみに持たり」

そでまくり（名）　勞働などする時に袖を臂までまくりあぐる事。○夫木「賤の女が妻木とりにと朝おきて色々衣そでまくりしつ」

そでまくら　袖枕（名）　袖を枕にして寐る事。○萬代「假庵の稻葉が上の袖枕吹きかへす風の夜寒なるかな」

そでごひ（ィ）　袖乞（名）　人の袖にすがりて物を乞ふ人。●乞食。

そでづつぽう（ホ）　袖鐵砲（名）　短銃。●ピストル。

そでぢちゃう（ャョ）　袖几帳（名）　袖を几帳に代用して顏を被ふ事。……耻かしきためにもし又ほ物を防ぐためにもする。○榮花「若き人々うちまきをあやにくにすれば御袖几帳のほどもをかしく見ねさせ給ふに」

そでじるし　袖印（名）　味方の目印として兵士の袖につくるもの。

そでぢかへ（ュ）　袖扣（名）　袖書に同じ。●手扣。

そでびょうぶ（ビョ）　袖屏風（名）　袖にて耻かしき顏を被ふ

事。

そき（名）もとは底と同語。◎到り止まる果て。●極端。○萬葉「あたまもる筑紫に至り。山のそき野のそき見よと」

そぎ（名）薄くそぎたる板。

そきばくも（副）そきだくもに同じ。（萬葉）

そぎた（名）そぎ板の略。＝そぎに同じ。（萬葉）

そきたつ退立（自動四段）遠ざかりて立つ。○祝詞式「皇大神の見はるかします四方の國は天の壁立つ極み國のそきたつ限り」

そきだくも（副）數知れぬほど。●いくらも。（萬葉）

そきぶき（名）そきにて葺きたる屋根。

そきへ（名）そきに同じ。へは方の意。○萬葉「天雲のそきへの極み我もへる君に別れむ日は近づきぬ」

そぎする（名）切り揃へたる髪の毛の端。……おもに中古の尼に云ふ。（枕）

そめ染（名）染むる事。●染め方。

そめいろ蘇迷盧（名）須彌山（しゅみせん）ともいふ。印度の古傳說に宇宙間を包合せりといふ想像の山の名。即ち「その高さ八萬由旬。金輪際より出で、大海の中にあり。日月其の半腹を廻り諸天遊舍するところ四面おの〳〵一色。謂はゆる東は白銀、南は瑠璃、西は玻脈迦（紅）北は黃金」と說きたるもの。……上に言へる如く四方色を異にしたる山なれば染色の意に言ひ掛けて云ふ事多し。○謠曲「落日の紅はそめいろの山をうつして」

そめいろ染色（名）染め上げたる色。

そめは染羽（名）赤、青、黃、紫などの色に染めたる矢の羽。

そめどの染殿（名）古へ禁裡に置かれし工場の名。御料の染物を爲したる所。

そめわけ染分（名）一つの物を種々の色に分けて染むる事。

そめかは染革（名）色を着けたる革。

そめがみ染紙（名）齋宮の忌詞。佛經の異名。（延曆儀式帳）

ぞめく（自動四段）〔一〕騷ぐ。●ざわつく。（雅）〔二〕ふざける。●滑稽がましき藝をする。（俗）

そめくさ染草（名）染物に用ふる色料。●染料。

そめき染木（名）〔一〕錦木の一名。○謠曲「戀の染木

とも此錦木をよみしなり」〔二〕染料に用ふる草木。○記「染木が汁に染め衣を」

ぞめき （名） 〔一〕騒ぎ。●どさくさ。(雅)〔二〕ふざけ。●うかれ。〔三〕俄狂言の類。……(俗)

そめしゃうぞく 染裝束(名) 束帯の時。半臂、下重、表袴など殊に美しき色に染めて晴がましき時に着る裝束。

そめひめ 染姫(名) 〔一〕染物をする女。〔二〕立田姫の一名。

そめもの 染物(名) 染めたる物。●染むべき物。

そみかくた （名） 山伏の異名。○金槐集「幾かへり往き來の嶺のそみかくた篠懸衣きつゝなれけん」

そし 祖師(名) 〔一〕佛教にて一宗の開祖。〔二〕特には日蓮宗の開祖日蓮上人。

そしろ 十代(名) 田に云ふ詞。十のしろ。多くのしろ。……しろを見よ。○夫木「新墾のそしろの門田植ゑしより秋は閨こそ定めがたけれ」

そしり 誹。譏。謗(名) そしる事。●誹毀。●誹謗。

そしる 誹。譏。謗(他動四段) 他人を悪しざまにいふ。●誹謗する。●誹毀する。●譏謗する。

そしょう 訴訟(名) 訴へ。●起訴。●公事。△(動)—訴訟す。

そじゃうしらはし 訴狀(名) 訴人の法廷に差出す書面。

(形。形狀言シク活) 譏らるべき有樣。●笑になるべき有樣。(源氏)

蘇志摩利(名) 高麗樂の曲名。

そしまり (副) さうして。●そこで。●かくて。(俗)

そして 組織(名) 物事を組み立つる事。△(動)—組織す。

そしき （名） 背。●脊中。●背面。(記)

そびら 聳えたる有樣。●脊の高き有樣。(形)—そびやかなる。(副)—そびやかに。○空穗「一院は清ううるはしくそびやかにおはします」

そびやかす 聳えしむる。

そびやぐ (自動四段) 聳ゆる。●脊の高くある。○源氏「いたうそびやぎ給へりしが」

そびゆ 聳(自動下二段) 高く秀づる。●脊高くある。●すらりとしてある。

そも （副） それに。●それに就きても。○拾玉集「吉野山そもむつまじきながめかな花待つ峰に

かゝる白雲」

そもそも
そもそも

押(名)　そも〳〵(副)の(三)を見よ。

抑(副)　(一)それも〳〵。●さても。●それに就いても。○古今序「此二歌は。云々。手習ふ人の始にもしける。そも〳〵歌のさま六つなり」(二)但し。●しかしながら。●さりとては。○大和「いとやすき事なり。そも〳〵人を忘れ給ふまじや」……(雅)(三)たゞ文章の起りに用ふる詞。それの類。足利時代の頃より用ひ來れりと見て謠曲、緣起類に多く其例を見る。……更に轉じて發端、最初などの意となり名詞の如く「そも〳〵から知らなんだ」など用ふるに至れり。○謠曲「そも〳〵是は桓武天皇九代の後胤。平の知盛幽靈なり」

そもじ

(代)　そなた。●あなた。……女中の詞。

そせい

蘇生(名)　よみがへる事。●生きもどる事。へ(動)—蘇生す。

そぜい

租稅(名)　租と稅と。●年貢。●稅金。

そせん

祖先(名)　先祖に同じ。

そす

(他動。又は自動サ變)　一說には進むの意。一說には過すの意。一說には愁殺すなどの殺すの字に同じ。といひて語原詳ならず。他の動詞の下に置きて其意を強むる詞と見るべし。○源氏「好みそす」「强ひそす」「責めそす」「爲そす」「よゝめきそす」落窪「かしづきそす」